

# PHD LETTER

## 114

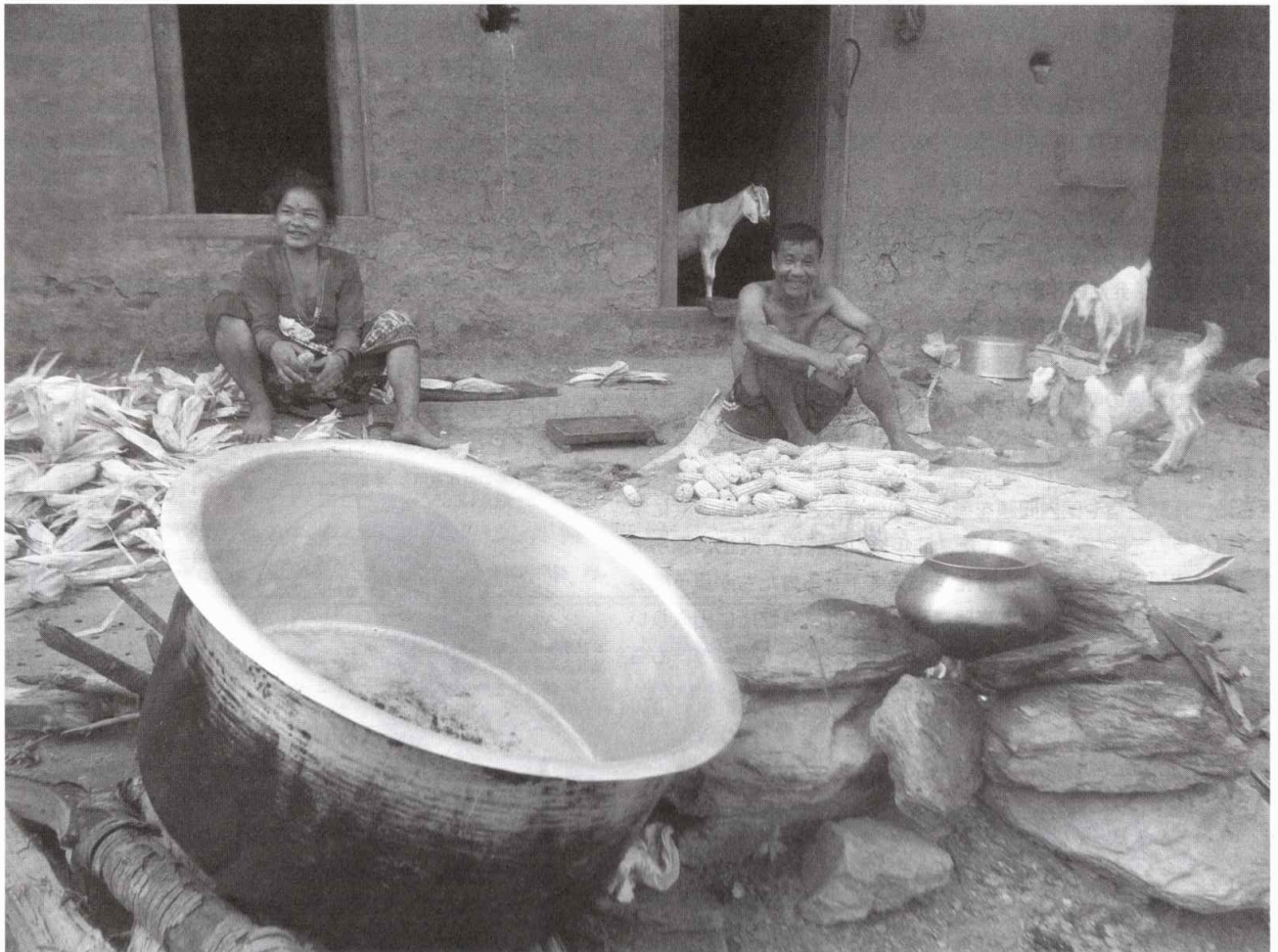
2010.7

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- 2010年度事業計画
- 研修生レポート 28期生紹介
- 同じ買うなら使うなら「土と緑の会」と「菜のはなの会」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行： 財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人： 藤野 達也  
住所： 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E-mail: info@phd-kobe.org  
URL: http://www.phd-kobe.org  
定価: 100円  
郵便振替口座: 財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688



ネパール カブレ、ガハテ村 撮影：FUJINO T.

首都カトマンズから車で3時間半、そして歩いて1時間、標高千メートルのタマンの人たちの村。山の斜面の畑でとれるとうもろこしを粉にして、お湯をさして作るデューロが主食。煮炊きはもちろん薪で。

2010年度 事業計画

### 3本の柱で新しい協力の輪を

09年度事業報告書で詳しくお伝えしましたが、昨年度の収支状況は極めて厳しいものになりました。今後もPHDの活動を続けていくために、これまでのいいところは残し、そこに新しい工夫を加えていこうと3つの柱をたてました。

(1) アジア・南太平洋とつながる、神戸、元町の事務所と各地域の皆さんのつながりを線から、地域の横の関係をからませた面として、支援、協力の輪を広げていく。

(2) これまで以上に研修事業と啓発事業の連動を密にし、各地域の研修実施の期間に、交流の場を多く組みこみ、支援、協力の輪を広げていく。

(3) PHDの活動の主役は、研修生と彼らを支えて下さる皆さんです。皆さんの地域の情報や人脈につないでいただき、ご希望や必要に合わせ、事業を組立てて、輪を広げていきます。

4月から職員の数で1人減りましたが、国内研修生をこれまでの秋から春からとし、人数も2人となりました。事務所のボランティア体制も再編成し、これまで以上の内容に多くの方々にかかわっていただき難局をのりきっていきたくと考えています。

### 啓発

#### 研修と連携し、啓発活動します！

新しい取り組みは、研修事業と効率よく連携することで、さらなる支援につながるしかけを行います。研修先の各地に滞在する間に、皆さんの発案で地域の学校、公民館、婦人会、ロータリークラブ、ソロプチミスト、お寺、教会などで交流会やバザーを行い、それが報道されるように図ります。

さらに、体験宿泊や国内問題を考える勉強会など、研修生と共に学べるプログラムを開催します。また、昨年に引き続き、PHD事務所での座談会、懇親会など開催し、PHDを支えて下さる方たちが集う機会をつくります。企画・運営や事務局業務全般へは、事務所に出入りいただいているボランティアの方々にチームで担っていただきます。もちろんお一人でも気軽にお訪ねください。



練習の成果を発揮することができ、日本語で上手に参加者の皆さんに伝えることができました。

6月5日、神戸市青少年会館で第28期研修生の来日報告会を行いました。3人の村の様子を紹介し、村の問題、日本で学びたいこと、抱負などを語りました。来日から研修生たちを支えている多くの方に参加いただき、あたたかい雰囲気の会となりました。

### 研修

#### 「地域展開」強めます！

#### ～「職員による研修」から「地域による研修」への転換

今年度は「研修の地域展開」ということで、研修生を各地域でより主体的に受け入れてもらいたいと思っています。つまり「職員が段取りをする研修生から、地域の皆さんが組み立てる研修生へ」です。そこからより多くの皆さんにPHDを、研修生を知ってもらいたいと思っています。

また、研修での学びを活かす「ふりかえり」にも力を入れ、帰国前には地域での普及を意識した「ファシリテーション研修」も実施します。これは一言で言えば「隣の人にどう話すか」です。日本での学びを、どのように村の人に伝えていくか。その際にどのようにコミュニケーションをとるかを研修生と一緒に考えます。

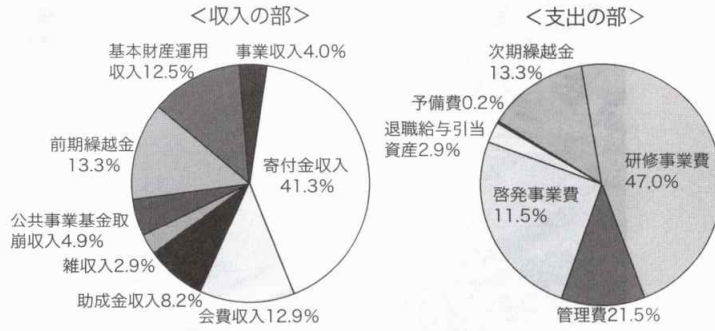
### 総務・財務

#### 新制度への移行をすすめます！

公益法人制度改革に対して、公益財団法人を目指して新法人移行をすすめていきます。そのための機関整備をはじめ組織体制の見直しを行い、活力ある運動推進の礎を構築していきます。各地域で支援いただく方々を中心に、多くのボランティア参加を得ることによってPHD運動の更なる広がりを推進していきます。

経済不況の余波が続く中で、PHD協会の財政は厳しい状況にあります。会員ならびに協力者の皆さんより、より支援をいただけるよう地域展開をはじめ、プログラムの効率的遂行に努めていきます。

2010年度予算（収支とも46,470,000円）



3月6日	第27期研修生帰国報告会
3月7日	コープ「2010ふれあいフェスタ宝塚」バザー
3月7日	米山奨学生歓送会
3月11日	JICA国際協力推進委員会議レクチャー
3月12日	上郡ロータリークラブ卓話
3月13日	コープ「祭inすみよし」バザー
3月25日	国際ソロプチミスト神戸バザー
4月24日	篠山ナマステ総会「ネパール報告」
5月10日	神戸南ロータリークラブ卓話
5月22日	関西国際大学カンボジア事前学習会
5月22日、23日	野草を食べる会
5月27日	夙川公民会講座
6月1日	神戸大学附属住吉中学校ポスターセッション
6月2日	研修指導者会
6月3日	神戸市シルバーカレッジ講義
6月5日	第28期研修生来日報告会
6月11日	関西テレビ青少年育成事業リーダー研修
6月22日	松原高校来所・「産業社会と人間」社会体験
6月25日	阪神シニアカレッジ講義

### 東西南北 問題解決 取組日記

#### 30周年を迎えるために

この6月でPHD協会の活動は30年目にはいりました。私が職員となったのが、その10ヵ月後。今でこそ、民間の国際協力の団体は珍しくありませんが、当時は数も少なく、ましてやそこで給料をもらって働く人がいることはまれでした。働くことを誘ってくれたPHDの提唱者、岩村先生自身が、「こういうところで、いつまでも給料がもらえると思わないでください、ここで経験を活かして、次の稼ぐ先を探してください」と、言われたくらいでした。

自分でも、国際協力ということの仕事にするに際して、語学や特定の専門性や経験がない人間が、長く続けることはないと思ってましたから、先生の言葉に対しても、そうだろう、なんとかしなければと思っていました。ところが、いろいろないきさつ、事情があって、1年が2年に、それがさらにと続き、今に至ることになりました。

自分のこと以前に、PHD協会そのものが続くことも、保証されたものではありませんでしたが、多くの方に支えられてここまで続けてきました。岩村先生の18年間の現場での経験を基にしたPHDの考え方の先見性や独創性はいまだに古びることはありません。限られた特別な人が担うのではなく、多くの人々の参加によって支えられる事業のあり方が裾野を拡げました。岩村先生の想いを事業として実現するために各分野からの協力を引きだしていった今井鎮雄理事長をはじめとする役員の方々の尽力も大きいものがありました。申し上げるまでもなく、これまでの活動は全国のボランティアの皆さんのご参加、職員の働きがひとつになっ

て続いてきました。

支援として、一時的な効き目に終わらない、時間はかかるけど、後に効果が継続する人づくりというやり方。現地のことを十分に知らないままに、外部の人間が指図をするのではなく、そこを良く知り、住み続ける当事者である村人が、決め、すすめるやり方。日本やいわゆる先進国といわれるところのやり方の押しつけではなく、外の知識、技術、考え方を是々非々で取り入れ、伝統的なものを尊重するあり方。さらに、研修を実施する過程で、日本の側がアジア・南太平洋を知り、そこから学び、また国内の社会問題に気づき、それに組み込むきっかけを示すことで構造的な問題解決にせまろうとすることなど、PHDはいくつもの独自の視点をもって、活動してきたことが、これまでのご支持をいただいてこれられた理由だと思います。

ここ数年、基本財産の運用収入、会費、寄附を中心とする収入状況がたいへん厳しくなっています。余裕のあった時期に積み立てたものを取り崩して、やりくりをしていますが、それはいつまでもというわけにはいきません。一定程度の規模の事業を維持していくためには、左ページに掲げた計画が実を結び、収入が増えることが必要です。それが難しければ、支出のあり方を変えなければなりません。

あらためて、岩村先生の思いを実践する人を増やしたい、多くの皆さんに加わっていただきたいと思います。

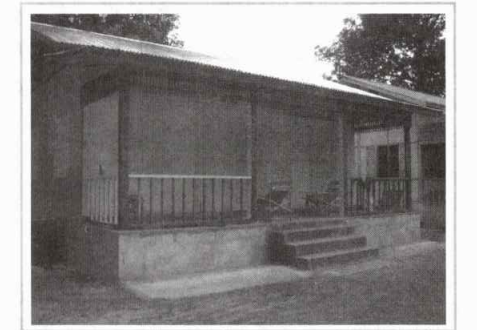
そのために現実的な話になります。そのための現実的な話になります。そのための現実的な話になります。そのための現実的な話になります。そのための現実的な話になります。

#### マンダレー最新情報

元職員の三輪望さんが、この5月にビルマを旅行し、マンダレー近郊の研修生の村にも立ち寄ってこられました。3月に帰国したばかりのザーナウンさんが、意欲的に農業に取り組み、市販の化学肥料や農薬に頼らない、村で手に入る木酢液、卵の殻、牛糞などを活用した方法を村の人に紹介していること、ポーポーハンさん（08年度）が、



畑に井戸を掘り、その水を使って、とうもろこし、豆、にがうりなど作物の種類を増やしていること、幼稚園で働くムームーさん（93年度）、ティダさん（07年度）の村、タダインシェに診



療所ができることになり、現在建設がすすんでいることの報告を聞くことができました。すこしずつ、村の生活が改善されていることをお知らせできてうれしく思います。

総理事代行 藤野達也

# 28期生研修生レポート

## 日本でどんな研修がしたいですか？

4月15日に来日した研修生たち。6週間の日本語研修を終え、いよいよ研修がはじまりました。村でのそれぞれの仕事や、村の問題を踏まえ、どんな研修を行いたいかが聞きました。

### 有機肥料の作り方

今は化学肥料を使っています。そこで、日本で有機肥料の作り方を勉強したいと思っています。

### 肉牛の飼育

子牛を買って育てていますが、病気になって、エサを食べなくなり、やせてしまうことがあります。そうすると売値も下がってしまいます。日本で牛の病気の予防やエサについて勉強したいです。

### 養鶏

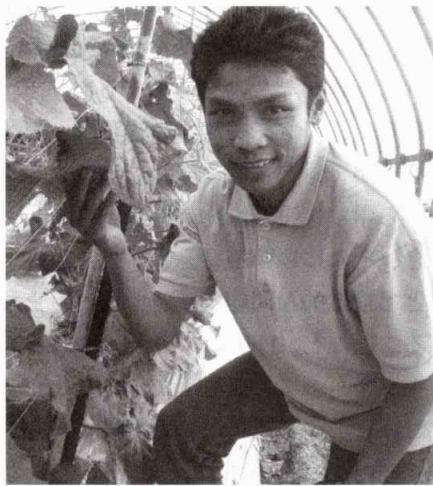
今は卵や肉用に10羽ぐらい飼っていますが、将来的には100羽ぐらい育ててみたいです。飼料、菜、飼育環境など、鶏の健康維持に関することを勉強したいです。

### お米の作り方

化学肥料を使えば収量は上がります。でも、買うお金がありません。有機農業で収量を上げる方法を勉強したいです。



インドラさん (28歳・インドネシア)



神戸市北区 藤井誠次さんのハウスで

### 農業をして楽しいと感じるときは？

「ありません。仕事はしんどいし、収量も多くはないし。でもそれが仕事だから。そうだなあ、収量が多いときは嬉しいかなあ。」

### 滞在家庭

葛原時寛さん、香織さん (神戸市垂水区)

PHD協会という団体を知ったのが、今から12年前のことです。学ぶことも大変多く、勉強になります。インドラさんはとても真面目で誠実な人です。休みの日は何か仕事はありますか？と必ず聞いてくれます。たのもしい家族がひとり増え楽しい毎日です。



### 助産士をしていて一番嬉しいことは？

「そうね、妊婦の方が無事に赤ちゃんを産んだ時がやっぱり嬉しい。それが一番です。ネパールではそうでないことも多いですから。」



ウルミラさん (28歳・ネパール)

### 滞在家庭

小田桐一良さん、温子さん (神戸市垂水区)

4年ぶり2回目のホームステイです。研修に打ち込むことが出来ますよう、健康に気をつけていきたいと思っています。もう少し日本に慣れれば、ネパールの料理を作ってくれるということなので楽しみにしています。



篠山市 ささやま保育園

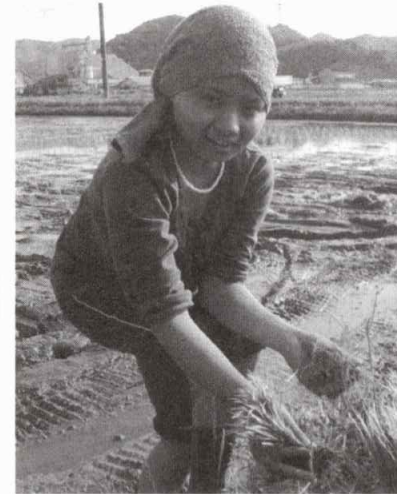


### 農業をして楽しいと感じるときは？

「楽しいけど、機械がなくて、人がするので疲れます。重い米を運んだりするので、腰が痛いです。」



ミンクマリさん (18歳・ネパール)



豊岡市 寺田まさみさんの田んぼで

### 滞在家庭

伊藤明彦さん、克美さん (明石市)

インドネシアのダスウィルさんに続いて2度目の受け入れです。ミンクマリさんは来日時17才で若過ぎるかと思いましたが、本当にしっかりしています。酢の物以外は『お母さんの料理はおいしい。』とよく食べます。身体に気をつけて研修を続けてほしいと願っています。



## ウルミラさんのお仕事

Q.ウルミラさんのネパールでの資格を教えてください。

assistant nurse and midwife (ネパール語でオノミ)です。準看護師と助産士を合わせた仕事をします。

Q.普段はサマ・セフ・サムハ (SSS) の診療所で働いているんですか？

はい。9時から5時まで働いています。夜勤をすることもあります。一日平均は25名で内訳は出産間近の方が4~5名、妊婦の定期健診が10~12名、他に風邪や頭痛などの人が8~9名来られます。



兵庫県立大の櫛笥で聴診器の体験をしました

Q.忙しいですね。子どもを取り上げたりもするんですか？

もちろんです。10年間で300人ほどとりあげました。一日に4~5人ととりあげたこともあります。出産の時は私と手伝いの人の二人でとりあげます。

Q.どうして看護と助産の仕事をしたと思ったのですか？

村では教育を受けた人が少なく、病気や流産が多いです。私の叔母も流産して、危険な状態になりました。17歳の時に農作業中に腕を切った人がいたのですが、その治療を手早く行なった看護師の人を見て私もなりたと思いました。

Q.資格を取るのには難しくなかったですか？

私の時は18ヶ月かかりました。費用も約10万円必要ですが、SSSが出してくれました。SSSは私の村にトイレを作り衛

### 有機肥料の作り方

私が小さい頃から化学肥料を使うようになったのですが、2、3年前から種をまいても育たないことがあります。芽がでて枯れてしまうため困っています。

### 応急手当

農業をしていて怪我をすることがあるので、応急手当ができるようになりたいです。

### 水が少ない

田んぼには池から水を引っ張ってきているのですが、乾季は池の水も充分ではなく、作物が作れません。

### 食生活

村では栄養バランスが悪いのか、子どもがよく病気になります。母親も仕事をしているし、知識もないせいだと思います。私も子どものころはよく病気になりました。

### カリフラワー

カレーの具として毎日のように食べるので勉強してみたいです。

生状況の向上プログラムを行っていたのですが、その一環で地域に医療従事者を育成するプログラムがあり、応募して採用されました。

Q.診察以外の仕事もしますか？

はい、月に一回村に行って、避妊、保健衛生、子どもの健康について話をします。訪問する村は11ヶ所あり、いつも25人ぐらい集まります。結婚した25~35歳の人が対象です。

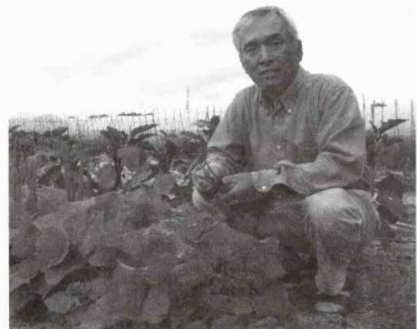


診療所で診察をするウルミラさん

同じ買うなら、使うなら!  
No.17 「土と緑の会」と  
「菜のはなの会」

安心安全!  
「菜のはなの会」の野菜

神戸市西区伊川谷に化学肥料や農薬にたよらず、土本来の力を引き出し、自然のサイクルにそった野菜作りに取り組んでいる有機農業生産者がいます。1991年のパプアニューギニアの研修生以来、毎年当会の研修生を受け入れてくださっている渋谷富喜男さんもその一人です。渋谷さんが有機農業を



「都市近郊のため、街の消費者との距離が近い」と渋谷さん

始めたのは、1982年。消費者グループ『菜のはなの会』からの依頼を受けて、6人ほどの仲間と小規模から始め、『土と緑の会』と名づけました。当時は「農薬と化学肥料を一切使わない農業なんて上手くいくはずがない」と言われており、初めに植えたキャベツは虫がついてぼろぼろになったそうです。有機農業は「やっぱり無理じゃないか」と思った時、『菜のはなの会』の人たちが「私たちも手伝うので」と虫とりをボランティアでしてくれました。おかげで、乗り越えられました。今では生産する野菜のすべてが有機栽培、徐々に増やしていった生産品目も60〜70種にのびます。『菜のはなの会』と生産者側との交流は続いており、「お互いに顔を合わせることで信頼関係ができ、安心感が生まれる」とおっしゃっていました。

農薬を使った野菜は、見た目で判断されます。有機栽培の野菜は、おいしそうですねと食べ物としてみてくれることが魅力とのことです。

(鶴谷賢彦・松田洋子)

● 購入について ●

『菜のはなの会』では、神戸市西区伊川谷の安全でおいしい有機野菜をプラスチックのコンテナで週1回配送 (Mサイズ:2,500円前後、Sサイズ:1,800円前後) しています。そのほかにも、月に1回、伊川谷や氷上産の無農薬米、水俣せっけん工場の粉石鹼製品や天然醸造の丸大豆濃口醤油、りんご、甘夏ジャムなど多種多様な商品を取り扱っています。たけのこ掘りや、田植え、れんげ畑コンサートなど楽しいイベントも実施しており、渋谷さんも参加されているとのこと。

配達コースは、神戸市(北区・東灘区を除く)と明石東部です。他地域へは、ペリカン便による「2,000円野菜パック」のお届けとなります。

お問い合わせ先

有機農産物共同購入  
「菜のはなの会」

〒651-2106

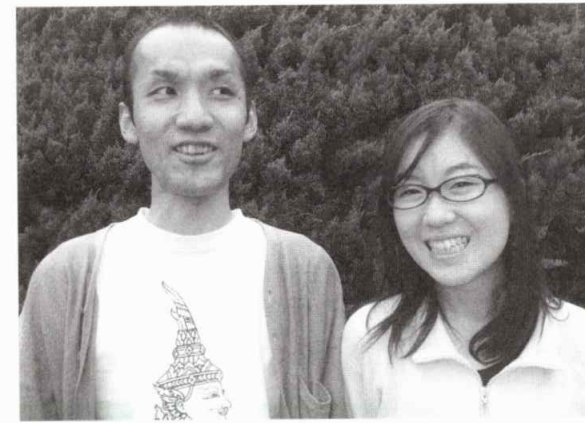
神戸市西区伊川谷町井吹1218

TEL&FAX 078-976-6831

月・水・金 10:00~12:30

私たち、14期国内研修生です!

4月から1年間、よろしくお願ひします。



松田洋子が紹介する

鶴谷賢彦 (つるがやよしひこ) さん

つるちゃんこと鶴谷賢彦さんは、よくしゃべります。彼が事務所にいる日は、にぎやかです。群馬出身、文学部と農学部と二つの大学を卒業後、青年海外協力隊員としてモザンビークで植林活動をした経歴の持ち主です。日中事務所で活動した後は、居酒屋で週に5回バイトをするほど、元気です。よく気が利き、さっとお茶を出してくれます。いつも助けられてばかりです。実年齢より若々しいです。ぜひ、つるちゃんに会いに事務所に来てください。

鶴谷賢彦が紹介する

松田洋子 (まつだようこ) さん

松田さんは謙虚な癒し系。けれど、自分の意見や考えをしっかりと持っています。そして、何よりノリが良い。クマの絵の描いたTシャツを着ていた松田さんに「クマさんおはよう」とあいさつすると、クマの絵を強調しながら「おはようございます」と応えてくれました。今思うと、あれはちょっと痛い大人(鶴谷のこと)への思いやりだったのかもかもしれませんが(笑)。ちなみに、単純作業はわりとすぐにあきらみたいで。

私たち、事務所サポーターです!  
週に〇日のお手伝い

日下部卓さん

PHDを知ったきっかけは、関西NGO大学の校長を藤野さんが

していたということでした。生徒だっ

たら通るだろうと安易に思って国内研

修生を受けたら、落選(笑)。それで

もPHDに関わりた!というこで日々

修行させてもらってます!

森永かほるさん

4月から週1回ボラ

ンティアとして活動

しています。今は主にアクセスの改修

などのお手伝いをしています。短い

時間ですがスタッフの方々との会話が楽

しいです。

吉田明希子さん

ソディの活動と事

務所内のお手伝いを

させて頂いています。PHDとは、日本語

ボランティアがきっかけで出会いました。

自分ができると、協力できればと思

っています。よろしくお願ひいたし

ます。

新たな出会い・新たな旅立ち

4月から顔ぶれがかわりました!

ボランティア松本直樹さんが紹介する

新研修担当

坂西卓郎 (さかにしたくろう)



神戸生まれの神戸っ子。阪神大震災でのボランティア活動、

フェアトレード活動、三木志染教会での岩村先生との出会い等を経て、PHD国内研修生。西日本研修旅行で水俣との出会いがあり、約5年間の水俣相思社での活動等を通して、多くの人と出会い、会員やボランティアのために時間を割いてくれる人物です。また坂西さんの情報発信力・組織力に期待しています。だけど、愛する奥さん・可愛いお子さんとの時間も大切にしてください。

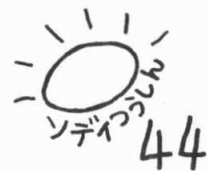
\*研修生の日々を綴ったブログ更新中⇒ <http://ameblo.jp/phd-kobe>

高垣隆博 (研修担当)

2005年より丸5年。研修担当として5カ国から15名の研修生に出会いました。人材育成という他にはちょっと類を見ない形で国際協力・村落開発に携わる中で、様々な事を学び、そして気づくことが出来ました。これまでPHD協会を去られた人たち同様、やはりこの5年間の多くの出会いは一番の宝だと感じております。今後も引き続き国際協力に携わっていきたくてありますが、そこでも新しい人との出会いは大切に、PHD協会での5年間で得たことを活かして歩んで参りたいと思います。

三輪望 (啓発担当)

国際協力というのは、遠くで誰かが行っている“すごい”ことではありません。食べるもの、買うもの、接するものなど、日々の私の一つ一つと繋がっているということ、PHDでの3年間で学びました。それは、研修生と一緒に働いた同僚、ボランティアの皆さん、各地でお会いした支援者の方々との出会いを通してです。これからは、また違った形でPHDと関わり続けていきたいと思っています。これからもよろしくお願ひいたします。



カレンの布が大学の授業とつながった

関西国際大学のサービスラーニングでフェアトレードというテーマの中でカレンの草木染め布を扱ってもらうことになりました。学生さんの自主企画として7月に尼崎のキャンパスで教員と学生を対象にしたカタログ販売と展示販売を行います。

「カレンの人たちの生活を日本の人たちに伝えたい」と2年生の利崇麻紀(としかあき)さん。英語教育学科の彼は、ビジネスプレゼンテーションとフェアトレードを結びつけようとしています。

一方で学生をまとめているのが佐々木緑先生。学生とのやりとりは英語です。「大きな仕事だけが国際協力ではなく、事務の仕事も国際貢献できることに気づいてほしい。授業での専門的な学びと国際協力をつなげたい。この経験を通じて学生が成長してくれれば」と期待を話してくださいました。

カレンの村の女性への支援が大学の授業と連動しています。ソディで支えながらこの企画を成功させたいと思います。



関西国際大学の学生さんたちとソディメンバーの企画会議

\*草木染めの展示販売会\*

Small Contribution can Make a Big Difference

~僕たちにできる小さな手助け~

日時: 7月31日(土)

10:00~17:00

場所: 関西国際大学尼崎キャンパス  
505教室 (JR尼崎駅北側)

PHDからもカレンの布のフェアトレードのお話をします。みなさま、ぜひお越し下さい!

## ホームページとEメールアドレスが新しくなりました！

ホームページ : <http://www.phd-kobe.org>  
 Eメール : [info@phd-kobe.org](mailto:info@phd-kobe.org)  
 PHDブログ : <http://ameblo.jp/phd-kobe>

ボランティアの徳永広子さんに新しいホームページを作成していただきました。同時にメールアドレスも変更しました。事務局や研修生の日々様子が分かるブログも毎日更新していますので、ぜひご覧ください！

## PHD NEWS

### ◆会費・ご寄附寄託状況

2010年 2月	86件	¥973,387
3月	72件	¥1,297,235
4月	45件	¥969,319
5月	65件	¥383,980
231件		¥3,623,921

多くの方々よりご浄財をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。新しい年度を迎え、地域展開をキーワードに、皆さまとの交流を通して、会費ならびにご寄附のご支援を賜れますよう努めてまいります。

### ◆ネパール・スタディツアー

締切り直前です！今すぐお申し込みを。

日程：8月18日深夜集合～27日早朝

参加費：既会員 215,000円

新規会員220,000円+会費5,000円

申込締切：7月15日（木）

### ◆夏のスタディツアー合同報告会

昨年好評につき、今年も夏のスタディツアーの報告会を行います。

日時：9月11日（土）（予定）

場所：PHD協会事務所



このところ「夢」の文字がよく目につく。私が「夢」から遠ざかっているせいだろうか。「吉備真備」「坂本龍馬」「坂の上の雲の面々」いずれも国づくりといった途方もない「夢」に邁進し、その「夢」を成就した先人である。しかし「夢」を追いかける人は歴史上の人物ばかりではない。近年、脚光を浴びるアフリカの地から国づくりに励む人たちのニュースが伝わってくる。

### ◆年末年始のタイ・スタディツアー

毎年恒例、北タイ、カレンの村を訪れます。草木染めの布を織る女性グループとの交流やホームステイ、村のクリスマス、新年も体験します。

日程：12月23日～2011年1月2日

金額：約20万円

### ◆2010年度も外務省「NGO相談員」を受託しました



国際協力・交流をはじめボランティアなど、ご相談、ご質問、お問い合わせなどを承ります。どうぞご活用ください。

### ◆生協総合研究所より助成をいただきました

コープこうべさんからご紹介をうけて生協総合研究所の「アジア生協協力基金」から10年度助成をいただくことになりました。ありがとうございます。内容は第28期研修生の協同組合学習とネパールの研修生へのフォローアップとして、コープこうべ職員の方の派遣です。成果にご期待ください。

我々は「夢」をただの絵空事に扱っていないか。「夢」を実現するパワーをどこかに置いてきてしまっていないか。すべて人のせいにして。

でもPHDには、身近に「夢」がある。ウルミラさん、ミンクマリさん、インドラさんだ。彼等の村づくりにかける「夢」をサポートすることが、我々の「夢」の実現なのだ。岩村先生の想いなのだ。

この3月に辞めたPHD職員の2人もその「夢」に向って羽ばたいていったに違いない。

(ボランティアS)

## 〇月×日のPHD協会

～近ごろ検討していること。

国内研修生 鶴谷 海外研修生滞在先の広々とした住環境を知り、日本のすべてがこうではないことを教えねばと、自らのアパートへの招待を検討中。

職員 佐々木 温めることが健康にいいとシャワーでなく湯につかることに。さらに温める策を検討中。風呂での汗はいいけれど、事務所で汗は程々に。

職員 坂西 ウルミラさんの研修希望「助産」に応えるために、お連れ合いさんと相談し、第二子を検討中。帰国までに間に合いますか。

職員 川原 幅が広がった業務に立ちむかう活力源に甘いもの。しかし体重増を招いてしまい、その対策にカロリー低目の甘いものへの変更を検討中。

職員 藤野 健康診断でE判定。一日絶食の上に、1.8lの水に溶いた下剤を飲んで精密検査。来年はそんなことにならないための健康維持策を検討中。

国内研修生 松田 芸達者のミンクマリさんに刺激を受け、何か人前で披露できるものをと、ネパールの歌の練習を検討中。デビューは秋の予定。

(外食が多い順)

制作協力：坂井時和 松本“顧問”直樹  
菅原宗晋 増本一郎

～再生紙を使用しています。